

様式1（視察用）

会派行政視察報告書

令和5年度会派 創政会 の行政視察研修を、令和5年5月29日（月）から5月31日（水）までの 2泊 3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和5年6月29日

名取市議会議長 菊 地 忍 様

会派名 創政会

代表 長南 良彦 

記

1 期 日 令和5年5月29日（月）～ 5月31日（水）

2 参加人員 4名 〈氏名〉 長南 良彦
荒川 洋平
丹野 政喜
佐々木哲男

3 視 察 先 (1) 石川県野々市市
(2) 石川県能美市
(3) 石川県金沢市

4 行 程 表 別紙のとおり

5 調査事項 別紙のとおり

6 所 感 別紙のとおり

令和5年度 創政会視察研修行程表（R5.5.29～31）

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
5/29 (月)	仙台駅(7:21発) ^{はやぶさ102号} ⇒⇒⇒ (8:31着)大宮駅(8:37発) ^{かがやき521号} === (10:49着)金沢駅(12:00発) ^{北陸本線(小松行)} === (12:06着)野々市駅(12:10発) シャトルバス(松任石川中央病院行) === (12:27着)野々市市役所・・・ 野々市市議会視察 ^{13:00～15:00}野々市市役所(15:26発) ^{シャトルバス(野々市駅南口行)} === (15:45着)野々市駅(16:11発) ^{北陸本線(金沢行)} === (16:19着)金沢駅.....宿泊先	石川県野々市市議会 所在地 野々市市三納1丁目1 電話番号 076-227-6141 (事務局) 調査項目 土地区画整理事業について	ヴィアイン金沢 所在地 石川県金沢市木ノ新保町1-1 電話番号 076-222-5489
5/30 (火)	金沢駅(7:54発) ^{北陸本線(福井行)} === (8:23着)能美根上駅(8:30発) ^{コミュニティバス} === (9:09着)能美市役所... 能美市議会視察 ^{10:00～12:00} ...能美市市役所(12:07発) ^{コミュニティバス} === (12:48着)能美根上駅(12:54発) ^{北陸本線(金沢行)} === (13:28着)金沢駅..... 宿泊先	石川県能美市議会 所在地 能美市来丸町1110 電話番号 0761-58-2240 (事務局) 調査項目 能美市スポーツ推進計画について	所在地 // 電話番号 //
5/31 (水)	金沢駅(9:38発) ^{北陸鉄道バス} === (9:47着)香林坊.....金沢市役所... 金沢市議会視察 ^{10:00～12:00}金沢市役所.....香林坊(12:17発) ^{北陸鉄道バス} === (12:33着)金沢駅(13:58発) ^{はくたか566号} === (16:27着)大宮駅(16:45発) ^{はやぶさ35号} === (17:51着)仙台駅	石川県金沢市議会 所在地 金沢市広坂1丁目1-1 電話番号 076-220-2392 (事務局) 調査項目 金沢21世紀美術館について	

【会派行政視察報告】

視察日時：令和5年5月29日（月） 13時～15時

視察先：石川県野々市市

報告者：創政会 佐々木哲男

《視察の目的》

全国的な人口減少・少子高齢化傾向にある中において、本市においても近い将来訪れるであろう人口減少・少子高齢化問題の施策を検討していくに当たり、狭い市域の全般にわたり昭和40年代より現在まで31地区の「土地区画整理事業」を先進的に推し進め、過去10年間順調に人口増加を続けている野々市市の様々な取組を調査・研究する。

《調査項目》土地区画整理事業について

調査項目：1 土地区画整理事業の考え方と目指す将来ビジョンについて

調査項目：2 中央地区整備事業の内容と進捗について

調査項目：3 成果と今後の課題について

調査項目：4 公共施設の老朽化及び市民ニーズの対策について

調査項目：5 賑わい・交流を生む核となる要素の集約について

調査対応：建設部都市整備課 課長 石畝朋宏 様

〃 課長補佐 西村裕之 様

〃 都市整備係主査 勝井幸太 様

進行：議会事務局 庶務調査係主査 高木政人 様

挨拶：市議会議長 北村大助 様

《野々市市の地勢》

「加賀の国」は、北陸の中心都市・金沢市の南西部、霊峰白山の麓に広がる野々市市、白山市、能美市、小松市、加賀市、川北町の6市町のことで、九谷焼をはじめとする伝統工芸や各地の温泉郷、山海の幸など、白山の多くの恵みを受け、魅力的で個性豊かなところである。

「野々市市」は、石川県のほぼ中央、加賀平野の東部に位置し、南北6.7キロ、東西4.5キロ、面積は13.56平方キロで、県内で最もコンパクトなまちでもある。

市域の北部から東部にかけては県庁所在地である金沢市に、西部から南部にかけては白山市に隣接し、肥沃な土地と良質な地下水に恵まれた手取川扇状地上にあり、山や大きな河川がなく、海に面していない平坦な土地であることが特徴である。

土地区画整備事業により商業施設や宅地の整備など、新たな街並み形成が進み、また、市の中央部には、市役所や教育・文化などの拠点が集積している。

《野々市市の沿革》

野々市市には、約 3,700 年前から約 2,500 年前の大きな集落跡である「国指定史跡 御経塚遺跡」や白鳳時代の大寺院跡である「国指定史跡 末松廃寺跡」が残されており、原始、古代から人々の生活と開発が進んだ地域であったことを物語っている。中世の時代には、地元の武士団である富樫氏の勢力が強まり、守護となった富樫氏が加賀国(かがのくに)の守護所を設けたことから、野々市市は加賀の政治、経済、文化の中心地として栄えた。

旧北国街道が通る本町地区は、江戸時代には宿場町として栄え、現在でも国指定重要文化財である喜多家住宅や、市指定文化財である旧魚住家住宅、水毛生家住宅といった由緒ある建物が残っている。

昭和 30 年から昭和 32 年にかけて、野々市町、富奥村、郷村や押野村の一部が合併し現在の市域が形成され「野々市町」となった。その後、商業施設などの増加、住宅地の広がりなどにより人口が増加し続け、平成 23 年 11 月 11 日に市制を施行し、「野々市市」となった。

《調査項目：1》 土地区画整理事業の考え方と目指す将来ビジョンについて

□これまでの土地区画整理事業

- 人口増加の受け皿として、優良な住宅地を供給
- 広域的な道路ネットワークの構築（都市計画道路の整備

↓

□近年の情勢の変化

- 人口減少の到来（野々市市でも 2040 年ごろがピーク）
- 老年人口の増加による必要な都市機能の変化（医療・福祉施設の需要の高まり）
- 安心・安全なまちづくりへの対応（多発する自然災害に対する市民意識の高まり）

↓

□野々市市立地適正化計画を策定（平成 31 年 3 月）

- 都市機能の集約と連携、公共交通の再編等利便性の高いコンパクトな都市づくり

↓

□目指す将来ビジョン『みんなで創り 将来に続く 快適都市 のいち』

- 目標 1 快適で便利な集約型の都市
歩いて暮らせる生活環境づくり、公共交通ネットワークの構築
- 目標 2 活力・魅力に都市
都市機能の適切な誘導と本市らしい魅力ある都市づくり
- 目標 3 安全・安心に暮らせる都市
市街地の完全性向上など都市基盤の整備充実やバリアフリー化

○目標 4 人も環境も共存・共生する都市

自然的景観の保全と身近な緑の拠点づくり

○目標 5 市民・事業者・行政が共に創る都市

〈質疑応答〉

【Q】市長が「野々市版コンパクトシティ」を目指しているがどの様なものか

【A】これまで人口が増え続けている本市において、金沢のベッドタウンとして発展してきた街であり、2つの大学を抱える学生の街である。

土地区画整理事業を通じた基盤整備によって市街地を広げていく一方、歴史的な街並みの残る北国街道を軸とした賑わいが創出するまちづくりを図る。

本市は、面積 13.56 キロ㎡、人口は約 51,600 人で、石川県全体と比べると、面積は 300 分の 1 程度だが、人口は 20 分の 1 程度に達している。つまり、人口密度が高く、既にコンパクトシティと同じように拠点施設が集約された状態にある。

これを「野々市版コンパクトシティ」として明確に打ち出し、その良さを市民が日頃から実感できるようにしたいと考えている。

【Q】石川県の自治体が手がけた P F I はこれまでに 4 件。そのうち 3 件を野々市市が実施しているが、民間資金の活用はいつ頃から意識してきたのか。

【A】市制に移行する前、2007 年に現市長が町長に就任した時から意識していた。

行政が上級官僚に相談して、補助金をもらいながら、思い描くようなまちづくりを実現しようという時代ではない。通常のやり方では、素早く整備を進めるのは難しいなどから、これまでも小学校や小楽興給食センターの整備に P F I を取り入れてきた。

《調査項目：2》 中央地区整備事業の内容と進捗について

□都市拠点(旧北国街道周辺)における取組

○学び・芸術・文化に親しむ「学びの杜ゾーン」

⇒「学びの杜ののいち カレード」※平成 29 年 11 月 1 日開館

施設構成・私立図書館(市内で唯一)

・市民学習センター(芸術活動の拠点)

・憩いの広場(緑化の推進)

○ヒト・モノ・コトが交わる「にぎわい交流ゾーン」

⇒「にぎわいの里ののいち カミーノ」※平成 31 年 4 月 1 日開館

施設構成・中央公民館(市内公民館の中央館)

・市民活動センター(市民協働の拠点)

・1の1 NONOICHI (商業施設)

□両施設の事業手法について

○財政負担の軽減と効率的かつ効果的に事業を実施する

○新たな付加価値を持った公共施設運営を実施する

○旧北国街道を含むスケールメリットを活かす

※「一体的に民間が担うことにより、優れたノウハウをより活かす」ことを目標に、様々な公民連携手法を検討し、P F I 方式の採用に至った。

「学びの杜ののいち カレード」⇒「B T O 方式」(設計・建設、開業準備、施設運営)

「にぎわいの里ののいち カミ-ノ」⇒「B T M 方式」(設計・建設、開業準備、施設管理)

《調査項目：3》 成果と今後の課題について

□「市(いち)」にこだわっている。「市」というのは、物や人が集まり、にぎわいの生まれる場所であり、そういう賑わいを象徴する地区として整備してきた。北国街道では 2011 年から、「北国街道野々市の市」という地域活性化イベントを市民協働の取り組みとして続けている。ハード整備の以前から、こうしたソフトの仕掛けが動き出してる。

野々市市は 2011 年 11 月に町から市になった証(あかし)を、中高地区に取り戻すことによって立てられればと考えている。

《踏査項目：4》 公共施設の老朽化及び市民ニーズへの対策について

□人口増加による多様化する市民ニーズのため、人口 1 人当たりの保有量は現状を維持しつつ、施設の長寿命化による更新費用等の縮減と民間活力の導入による管理・運営費用の縮減を図る。⇒「新しく作るから、賢く使うへの転換」

□野々市市公共施設等総合管理計画

○計画的な維持管理による機能保全と長寿命化の推進

・事後保全型から予防保全型への転換

○実情に見合った施設の総量と配置の適正化

・人口規模に見合った施設総量の適正化や統廃合や複合化に取り組む

○市民の安全・安心な生活の確保

・地域防災計画の位置づけのある重要度の高い施設を優先

○公民連携によるまちづくりの推進

・指定管理者制度などの「P P P (パブリック・プライベート・パートナーシップ)」を推進

○総合的な公共施設マネジメントの実施

・情報を一元的に掌握・監理する体制の構築

〈事例〉 旧市立図書館⇒市立図書館＋市民学習センター
旧中央公民館⇒中央公民館＋市民活動センター
現市民体育館⇒スポーツを「する・みる・支える」の観点から、野々
市中央公園拡張整備事業において屋内アリーナの建
設を検討中

《調査項目：5》 賑わい・交流を生む核となる要素の集約について

- 「高い集客性に付加価値を生み出す取り組み」⇒PFI事業者の独立採算方式で実施
 - 「学びの杜ののいち カレード」
 - ・「憩いのひろば」や「飲食等サービス機能」を併設
 - 「にぎわいの里ののいち カミーノ」
 - ・「いつもの広場」や「商業地域」を配置

【考 察】

土地区画整理事業は、道路、公園などの公共施設を整備・改善し、土地の区画形質を整え、宅地の利用増進を図り、良好な市街地を総合的につくる事業であるが、野々市市では、昭和40年からこれまで約60年にわたり、事業を完了あるいは現在事業中の2地区をあわせて31地区にて事業が行われており、その内訳は個人施行4地区、共同施工8地区、組合施行18地区、公共団体施行1地区となっている。その結果、人口が増加し、それにより大規模小売店が進出し、生活利便度が向上した。この生活利便度の向上を受け、更に人口が増加するという好循環が生み出されており、平成23年の市制施行後、人口が増加し続けている。

その背景には、平成10年度に「野々市市都市計画マスタープラン」を策定、平成24年度に見直しを行い、これに即して都市施設などの整備を進めており、平成31年度3月には、持続可能な都市構造への再構築を目指し、将来の人口減少社会に対処するための都市施設や居住の適正配置の方向性を示した「野々市市立地適正化計画」を策定し、都市施設や居住の集約、公共交通の再編による利便性の高いコンパクトな都市づくりを進めている。

そして新たに、社会経済情勢の変化、現況特性、市民意識調査結果、都市づくりの課題を踏まえた「将来都市像」、「都市づくりの目標」、「目標人口」、「将来の都市構造」を定め、令和4年度から24年度までの「都市計画マスタープラン」を策定した。これらとリンクした土地区画整理事業は、金沢のベッドタウンとして発展を続ける野々市市にとって、非常に理にかなった取り組みであろうと感じさせられた。

野々市市の人口ピラミッドは特徴的であり、特に 20 歳代前半の男性が突出すべく、逆に 20 歳代後半が減少している構造となっている。これは、金沢工業大学の学生が在学中は野々市市で過ごし、卒業と同時に県外へ人口が流出しているためで、この対策として、石川県内の就職率を高める取り組みを野々市市だけでなく石川県全体でいろいろな施策が行われているようだ。「第 2 期野々市市総合戦略」での具体的な戦略として「仕事をつくる野々市らしい産業の創出」が掲げられており、企業、創業支援の推進が重要であると考えられ、人材の確保と育成として若者や女性の起業家や創業者に対し、事業を軌道に乗せるまでに必要となる人的、技術的、経済的支援を行っている。

近年、本市においても、宅地開発や大規模小売店が多数進出して来ているが、単発的な民間や組合主導の土地区画整理事業は、市が目指す構想とは必ずしも合い合ったものばかりではなく、総合的に良好な市街地づくりの方向に進んでいるかは甚だ疑問である。

野々市市の「加賀の国としての魅力」、「金沢のベッドタウン」、「面積・人口密度」と、本市の置かれている条件とは大きな相違はあるものの、本市においても近い将来人口減少・少子高齢化問題が訪れることを真剣に受け止め、社会経済情勢の変化の中で、都市としての健全な発展と秩序ある整備を図るための「土地利用（区域区分や用途地域の設定など）」、「都市施設の整備（道路、公園、緑地など）」、「市街地開発事業（土地区画整理事業など）」を推し進めていくことが今後の課題と捉えている。

名取市議会創政会視察研修報告書
視察日程：令和5年5月30日
石川県能美市議会 10:00～11:30
担当：荒川洋平

能美市スポーツ推進計画について

1.はじめに

能美市は、平成17年2月1日、能美郡内の根上町・寺井町・辰口町の3町の対等合併により誕生した。

石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、県都金沢市へは北東約2kmの距離にあり、南には日本海側の拠点「小松空港」がある小松市が隣接している。

北側には標高2,702mの白山から流れ出る手取川と梯川に挟まれた扇状地と、日本海に面した5.82kmの美しい海岸線があり、海・川・山・平地に恵まれた非常に豊かな地勢となっている。

多様な歴史・文化を有する良好な居住環境のもと、森喜郎元総理大臣やメジャーリーグで活躍した松井秀喜さんをはじめ世界の様々な分野で活躍する人材を輩出している。また、能美市の人口は平成28年10月5日には住民基本台帳登録者数が5万人を突破したが、近年、人口減少傾向にある。その他、能美市の取り巻く課題として、少子高齢化や社会インフラの老朽化等があり、これらの諸課題に対し全ての事業・施策が移住定住に繋がるよう取り組んでいる。

令和5年4月1日現在

人口：49,576人

世帯数：19,718戸

議員定数：16人

今回の視察対応職員

能美市教育委員会 管理局长 森 直樹さま

スポーツ振興課長 古橋 由里子さま

スポーツ振興課長補佐 勘田 桂子さま

2.スポーツ推進計画策定について

平成23年にスポーツ振興法を全面改修したスポーツ基本法が公布された。その中で、地方公共団体はスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めることとする旨が明記されたことから、能美市においてもスポーツ推進計画策定することになった。



図1 能美市スポーツ推進計画

能美市スポーツ推進計画の概要は、以下のとおりである。

第1章

策定にあたって

- ・計画の趣旨、位置づけ

第2章

現状と課題

- ・人口

- ・スポーツ活動

第3章

計画の概要

- ・計画の理念
- ・基本目標

第4章

主な施策の展開

- ・生涯スポーツの振興
- ・学校教育・スポーツの充実
- ・スポーツ施設の活用と整備
- ・スポーツ団体の育成支援及び競技スポーツの振興

3. 策定後の現状と課題

能美市スポーツ推進計画の各種施策の内容に基づいて、事業は実施されているとのこと。施設の老朽化に伴い、能美市久常プールの施設取り壊しなど、施設の管理も進んでいるという。課題としては、3町合併した当初からそれぞれの施設管理の方法が続いていて、統一されていないこと。多くの施設の管理委託を受けている「ふるさと振興公社」のさらなる管理への理解など、施設面に加えて、部活動の地域移行が大きな課題と伺った。

4. 能美市の地域運動部活動の取組について

能美市は令和2年度に市単独事業として、能美市スポーツアカデミー事業を立ち上げた。これは、競技力向上を求める生徒や保護者の声を受け、市体育協会を通じてソフトボール・ハンドボール陸上競技に事業費を補助金として交付し、部活動としてではなく、

地域活動として指導を行うというものの。令和3年度はこの事業を国補助100%1,500万円の予算が付いた。令和4年度は国補助50%3,500万円の予算付き、3競技に加え新たに4競技を対象に実施した。こういった取り組みを基礎として今後、部活動の地域移行を進めていきたいとのことであった。しかし、指導者の人材確保・指導者の質の確保・謝金の取り扱い・横の連携不足によるスピード感など、全国的に課題とされていることは能美市も同様で、苦慮されているとのことであった。

5. 考察

スポーツ推進計画は法の中では努力義務とされているが、現状のスポーツに対する市民の意識や、取り組みの調査、今後のスポーツの振興の在り方など、市の方針を定めるという点で策定することの意味は大いにあると感じた。さらにスポーツ施設の老朽化は全国的な問題で、本市においても課題の一つであると認識している。長寿命化計画と共に、今後の施設の在り方も計画に盛り込むことは必要である。本市は令和5年度中にスポーツ推進計画を策定する予定だが、能美市のように、現状と課題を整理し、現在スポーツに親しむ市民と、将来スポーツに参画する市民のためになるよう慎重に策定にあたってほしい。スポーツを通して、人生を楽しく生き生きとしたものに出来る市民が一人でも増えることを望むものである。



図2 能美市議会議場（視察終了後）

令和 5 年度創政会視察研修

訪問日時：令和 5 年 5 月 31 日

訪問先：金沢 21 世紀美術館（石川県）

創政会：長南良彦・佐々木哲男

・荒川洋平・丹野政喜

説明者：金沢 21 世紀美術館総括マネージャー兼総務部長：田村 稔 様

説明者：金沢 21 世紀美術館総務部総務課課長補佐：田淵晃由 様

□金沢 21 世紀美術館の概要について

金沢 21 世紀美術館は中心市街地に近く、また、金沢城公園や兼六園に隣接する緑豊かな周辺環境に調和した美術館として、平成 16 年 10 月にオープンした。

これまで、ベネチア・ビエンナーレ国際建築展・金獅子賞やプリツカー賞をはじめとする国際的な賞を受賞しているほか、2014 年には地域創造大賞・総務大臣賞を受賞するなど国内外で高い評価を得ている。全体事業費は約 200 億円、敷地面積約 2 万 7 千平米。

年間の入館者数 176 万人。（R4 年現在）※コロナウイルス感染症前は 233 万人（R1 年）日本を代表する近代美術館の一つである。

□美術館での市民活動の内容について

金沢 21 世紀美術館の特徴の一つは、金沢市内で学ぶ小学校 4 年生の全児童を美術館に招待する作品鑑賞プログラム「ミュージアム・クルーズ、」と金沢市内の中学生美術部員たちがアーティストやデザイナーと共に様々な表現に挑戦し、新たな視点や考え方を学ぶワークショップや展示・鑑賞会などの教育プログラム「中学生まるびいアートスクール」。そして、地域住民が美術館に親しむ契機となる、市民ギャラリーの貸出のほか、ギャラリートーク、ワークショップなどの各種プログラムを実施していることだろう。

特に子供たちに美術館体験をサポートする「クルーズクルー」は市民のボランティア活動だが、美術への興味や関心を深める効果があり、毎回好評とのことであった。

□維持管理など施設面での課題について

開館から 18 年が経過し、老朽化が著しいことから中長期修繕計画策定に向け調査を実施している。特に R6 年が開館 20 周年を迎えることから北陸・関西方面のキャンペーンや万

博、北陸新幹線の動きに合わせて実現したいとのことであった。

□ 21世紀美術館の成果「経済効果と交流促進」

成果：来館消費による経済効果は、入館者年間 30 万人で 105 億円と試算され、これを平成 30 年の 258 万人で換算すると年間 900 億円の経済効果となる。市内 200 店舗の飲食店商店の連携事業により観光客の回遊性を高めており、まちの交流促進につながっている。

□ 今後の課題「ウィズコロナ・ポストコロナ」

来るべきポストコロナを見据えながら、感染対策を適切に講じつつ社会経済活動もしっかり進めると言う理念のもと入館者数のさらなる増加を目指していくことが課題である。

□ 考 察

JR を出ると「加賀百万石」という、大きな幟が目飛び込んでくる。中学生や高校生の修学旅行だろうか。街中は制服姿の子供達の元気な声が溢れている。今回の視察で訪問した金沢 21 世紀美術館もメモを取る子供達や海外から訪問客でいっぱいだった。そのような中で視察の対応に当たっていただいた田村稔総括マネージャーや熱心に説明していただいた職員の皆様に心から感謝申し上げたい。

今回の訪問で、感心したのはミュージアム・クルーズの取り組みだ。金沢 21 世紀美術館は、ミッションの一つに「子供たちと共に成長する美術館」を掲げているが、学校関係者や美術館のスタッフ、クルーズに参加するボランティアの努力により、確実な成果を上げていと感じた。金沢市内で学ぶ小学校 4 年生のすべての児童を美術館に招待する。それが毎年繰り返されることで、一人一人の未来への種まきとなっている事だろう。児童の中からミュージアムクルーズが生まれ、豊かな感性が広がっていく。そんな可能性と期待を抱かせた視察だった。

（文責：丹野政喜）